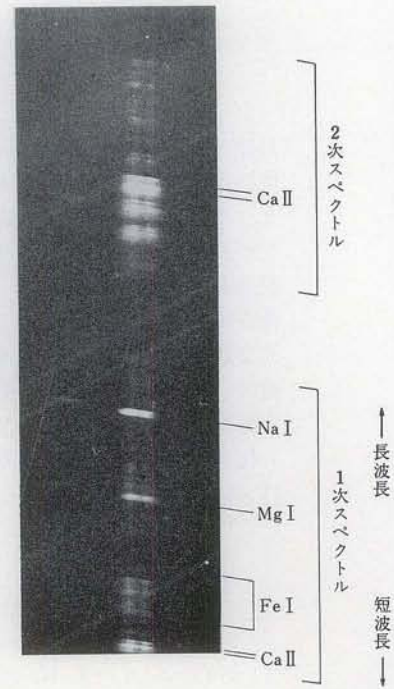
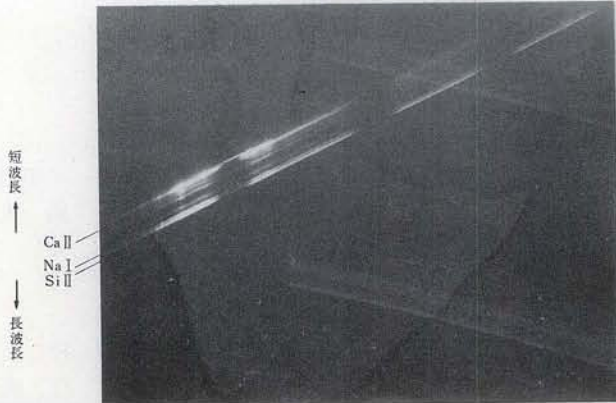
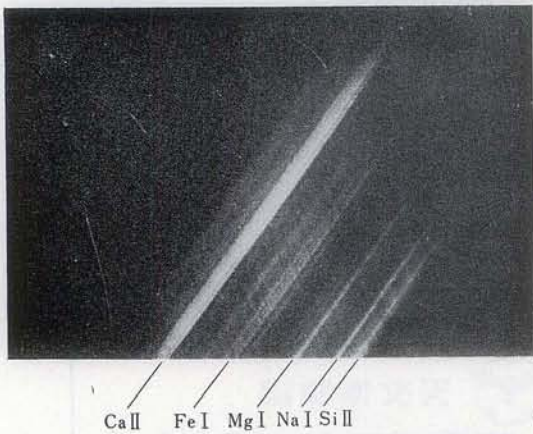


1964年8月13日 ▶  
ペルセウス座流星群  
プリズムによる  
固定撮影



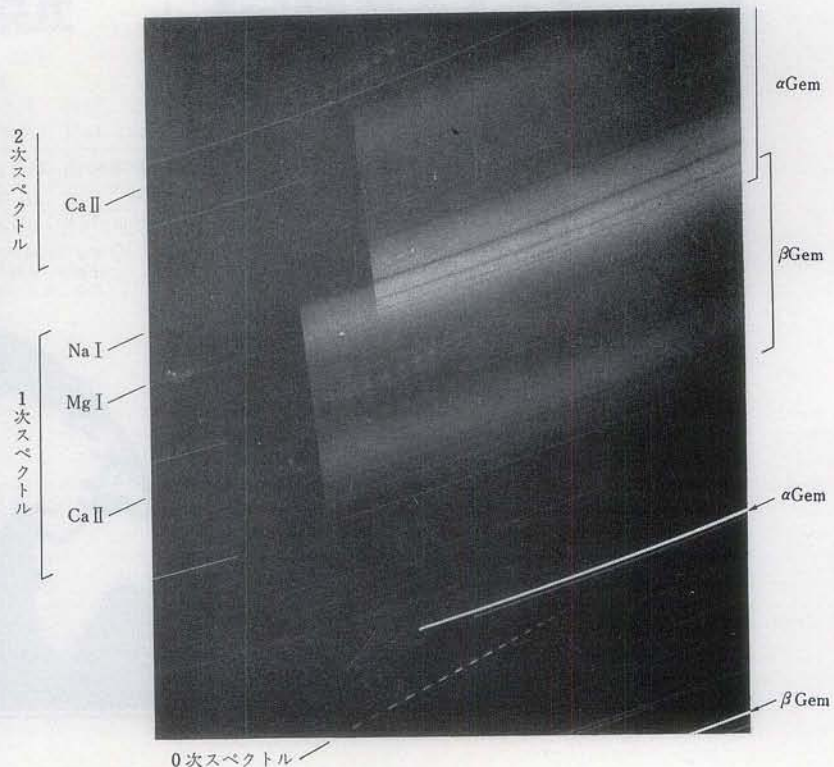
◀ 1965年11月16日  
しし座流星群  
プリズムによる固定撮影



▲ 1966年12月15日 ふたご座流星群  
回折格子による固定撮影

← 短波長      → 長波長

▶ 1965年11月18日  
しし座流星群  
回折格子による  
固定撮影  
流星が明るすぎて高  
次のスペクトルがいく  
つも重なりあってし  
まっている。



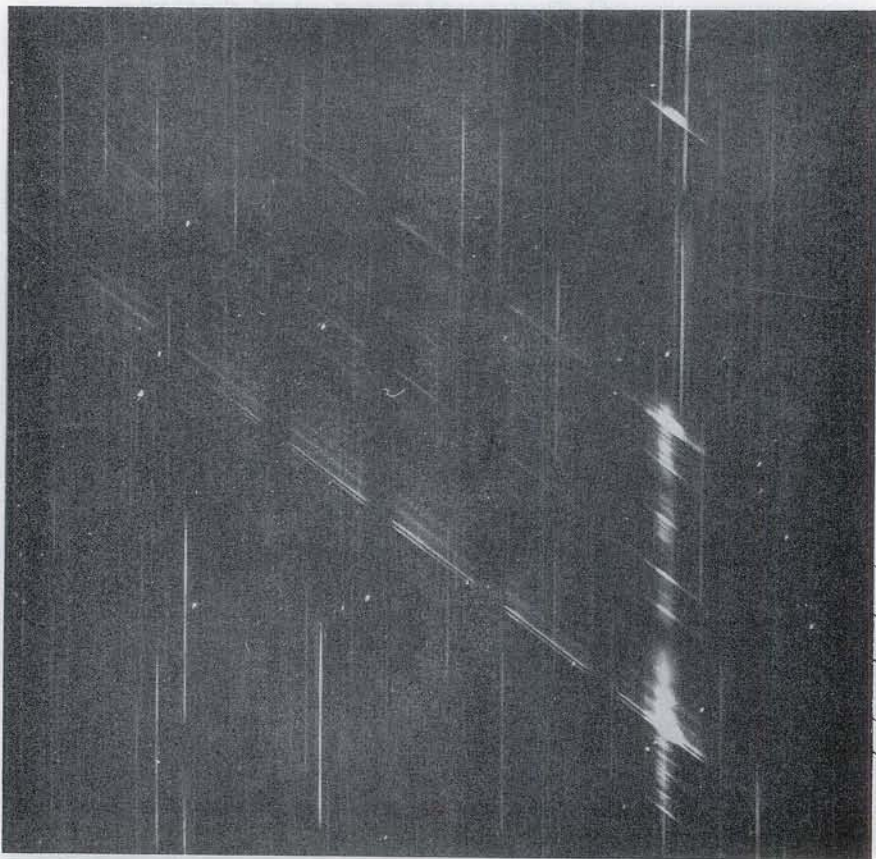
▲ 1964年12月13日 ふたご座流星群  
回折格子による固定撮影。αGem のバルマー線もよくみえている。

Ca II 3次スペクトル

# スペクトル (本文 340 頁参照)

1975年 8月12日  
 ペルセウス座流星群  
 回折格子による  
 追尾撮影 ▶

東京天文台堂平観測所で1964年から1975年までの間に得た流星スペクトルの写真の中から、プリズムを使用した初期のもの、回折格子を使用したもの、赤外フィルムによるものなど数点選んだ。固定カメラによるものでは、恒星は日周運動により移動するのでスペクトルも幅の広いバンドになり、その中にバルマー系列を見ることができ、ブレイズされた回折格子では0次スペクトル(直接像)の片側だけにスペクトル像ができています。流星像が破線になっているのは、回転シャッターによるためである。



0次スペクトル

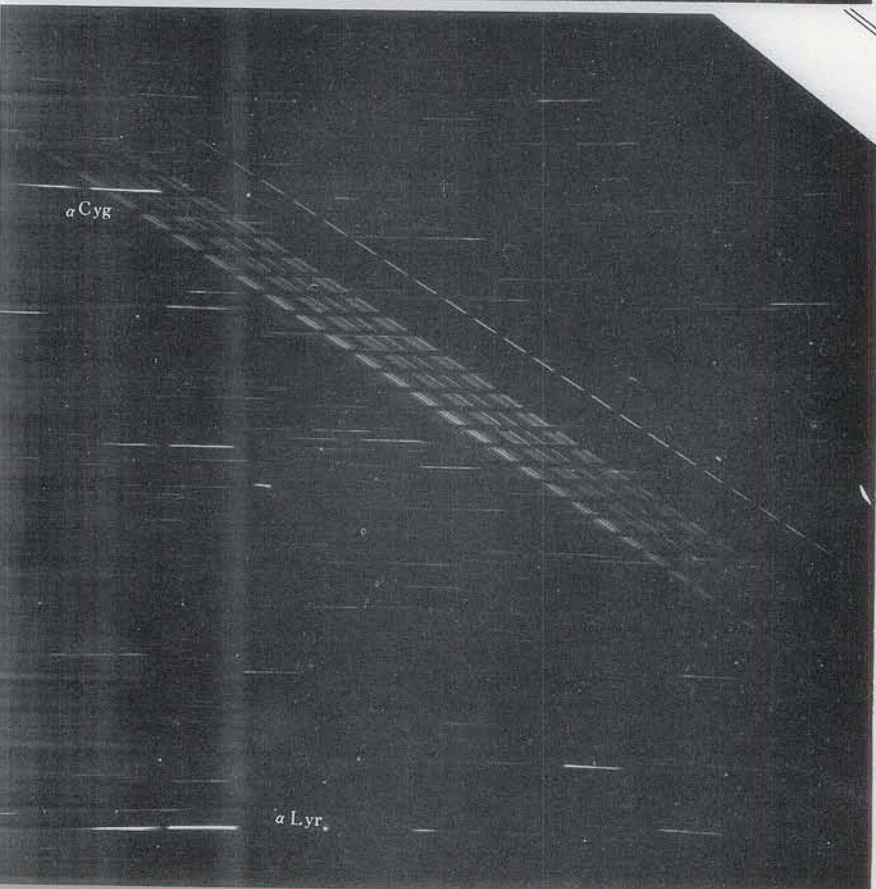
Ca II  
 Fe I  
 Mg I  
 Na I  
 Si II

1次スペクトル

Ca II

2次スペクトル

$\alpha$  Cyg



0次

1次スペクトル

2次スペクトル

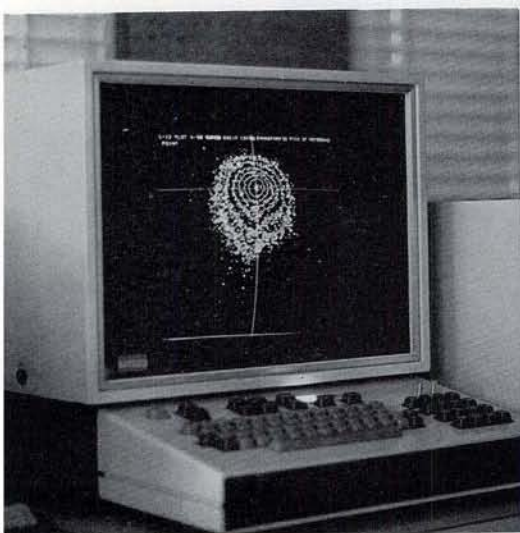
$\alpha$  Lyr

1975年 8月13日  
 散在流星  
 回折格子による  
 追尾撮影  
 回折格子のブレイズによって、直接像(0次スペクトル)の片側だけにスペクトル像ができている様子がわかる。▶

# 天文学における

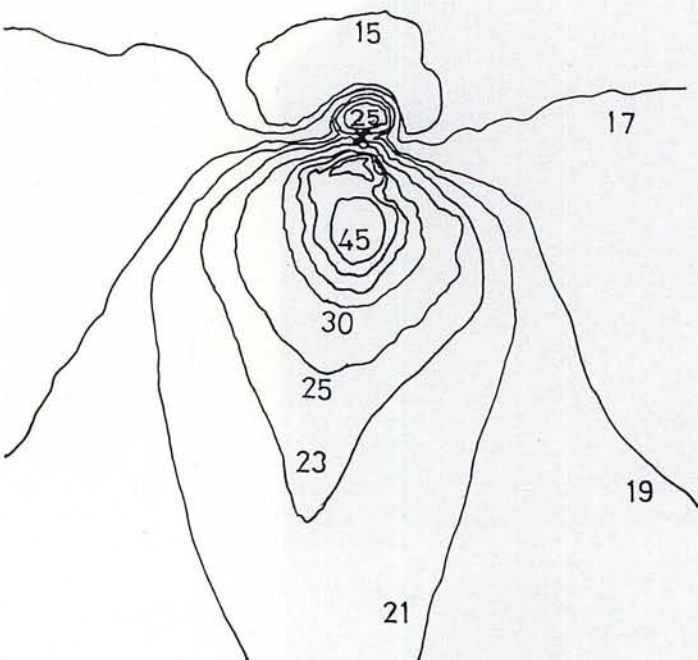
## グラフィックディスプレイの利用

(349 用頁参照)

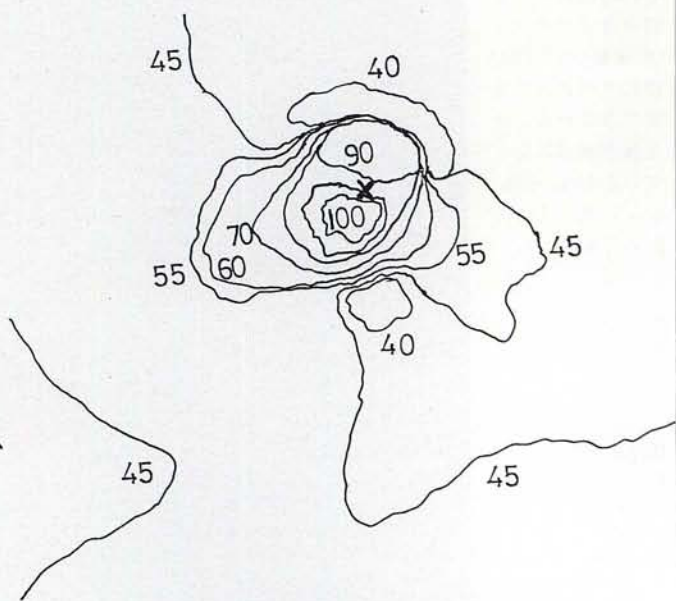


▲ FACOM 6234A ディスプレイ装置によるウェスト彗星 (1975 n) の核の部分の等濃度線

▲ 東京天文台の新しい電子計算機 FACOM 230-58 の全景



ウェスト彗星の等偏光度 (%) 曲線



ウェスト彗星の等偏光位置角 (度) 曲線